

# 話題 人 くりくほ

## 富山湾を地域の顔に育てたい



富山湾を愛する会理事長  
高見 貞徳氏

### 魅力向上へまず藻場作り

富山湾は  
さん  
い（高見）

「麗気楼（しんきろう）のほえ、海水をきれいにする効果が期待できるためだ。」

「例えば、水際から防波堤までの間に、藻が育ちやすい小さな堤防をつくる。こういう発想は、防災、漁業など、縦割りの行政からは生まれにくい」と高見さん。富山湾全体に光を当て、トータルで魅力を高めるにはどうすべきか、を出发点に考える。

「富山湾を愛する会」が三月末、発足した。理事長の高見貞徳さんは「富山湾を、立山黒部に負けない地域の顔に育てたい」と意気込んで、藻場から生まれる海藻やその加工品を富山の特産物に育てたり、藻を人工的に増やして成長させ、種苗を移植する技術確立したりと、ビジネスの種につなげることも可能になる。

「例えば、漁網の浮きに貝が付着して網が沈んでしまう問題があるが、浮力のあるロープを作ってみよう。そんな発想もこの会なら生まれやすい」と高見さん。

多くの学者が研究してきたが、その内容を周辺住民は知るすべもない。二〇〇一年に世界で初めて、群生するオオグチボヤ（原索動物の一種）が富山湾の深海底で発見されたのは、ごく一例。「このユニークな生物を富山湾のマスケットに育てたい」と高見さん。富山湾の魅力と可能性は、尽きないと話す。

68歳、富山市出身